

学校教育目標	夢に向かって自ら学び、心豊かで、最後までがんばり通す子どもの育成
育成を目指す資質・能力	問題発見・解決能力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ○国語の知識・技能では、主に低学年では漢字の習得が弱く、応用力も乏しい。高学年では、言葉の意味を理解して文章内で適切に使う力が弱い傾向がみられる。 ○思考・判断・表現では全学年で、問いを正確に読み取り指示通りの的確に答えること、主語・述語を正しく対応させた文章力、理由や根拠を書く力などが弱い傾向がみられる。	<b>各種学力調査の分析結果から明らかになった課題</b> ○家庭学習の取組には、個人差がみられる。特に、誤答のやり直しが、なかなか徹底できていないので、習熟度に差が生じている。 ○一連の学習過程の中に適宜、ノート指導を位置付け、学年に応じた重点指導項目を設定しているが、学年が上がることに個人差が顕著になっている。自分の考えを書く力の育成と全体的なレベルアップが課題である。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○様々な話し合い活動の形態(ペアトーク、グループトークなど)と、伝え合いが学び合いにつながるよう教材・教具(デジタルツール・アナログツール)の活用などにより、対話的な問題解決能力は向上している。 ○言語能力の育成に向け、読書活動の取組を強化してきたが、実態として読書量の確保ができていない児童がまだまだ多い。	
指導の状況	<b>1 組織的な授業改善の取組状況</b> ・個別最適な学びの実現による「学習の個別化」と「指導の個別化」については、授業におけるタブレット端末の活用を通して、前進を図っている。 ・学習規律の徹底については、「今月の学習のめあて」と「振り返りカード」の取組を全学級で進めている。 ・ノート指導の充実に向けて、よい手本となるノートを公開したり、自分の考えやと友達の考えをノートに位置付けたりすることで、ノートの質の改善が進んでいる。  <b>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</b> ・朝のチャレンジタイムにおいては、既習事項の定着に向けて反復練習を続けている。特に、本年度からはタブレット端末によるデジタルコンテンツの活用を積極的に進めており、個別の進度の違いに対応したドリル学習をどの学年でも取り入れている。 ・学習規律の定着は個人差はあるが、どの学年も1学期に概ね身に付いてきて、落ち着いて授業に臨んでいる。	

学力に関する達成指標
・1・2年は国・算、3年以上は国・算・理で単元末テストの平均点を86点以上にする。 低学力層の児童の割合(単元末テストの平均点60点未満の児童)を6%未満にする。 ・滝尾っ子ノートのきまりにより、ノートを工夫して書いている児童を80%以上にする。 ・学校評価に係るアンケートにおいて、「授業が終わった時に、分かった・できたという気持ちになっている」という質問に、肯定的に答える児童の割合を93%以上にする。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	<b>〈授業改善のテーマ・重点〉</b> 意欲的に取り組み、学び合う児童を目指す指導法の在り方 ・考えの広がり・深まりを生むような、学習活動の設定と伝え合いの活動の充実 ・個別最適な学びの実現に向けた「学習の個別化」の推進 ・学習規律の確立	
	<b>〈取組内容〉</b> ・授業において、児童が考えを伝え合う活動を効果的に取り入れるとともに、児童の中から生まれる疑問を大切に課題を設定する。 ・習熟度別授業や補充学習の場を設定するとともに、タブレット端末の積極活用を図り、個別最適な学びによる学力向上を図る。 ・発達段階に応じた学年ごとの学習規律を設定する。	<b>〈家庭・地域の取組内容〉</b> 学校評価に係るアンケートにおいて、「家では、子どもが宿題をしているかを確認している」に肯定的に答える割合を85%以上にする。
	<b>〈取組指標〉</b> ・「めあて」～「振り返り」までの見通しのある授業を1日2回以上実施する。 ・授業や補充学習でタブレット端末を1日1回は活用 ・「書く力」の育成するため、学年ごとに設定した目標に従って、毎日、指導する。 ・学年部毎に低学力層に向けての指導体制を工夫し、週1回以上の個別指導を実施する。 ・3年生以上では算数で少人数指導・TT指導を実施する。	<b>〈家庭・地域の取組指標〉</b> ・「滝尾小学校 家庭学習の手引き」を参考に、家庭学習の習慣化に取り組む。 ・定期的に児童が家庭に持ち帰ったタブレット端末を活用し、家庭学習に取り組ませる。
	<b>〈検証指標〉</b> ・月に1回以上行われる3部の分掌部会で、毎回日々の授業改善の様子を出し合い、検証する。 ・分掌ごとに行う互見授業・交換授業を学期に2回以上行い、授業後は分掌部会において授業実践の見直しを行う。 ・月に1回以上行われる学習部会で、学習規律の状況を見直し、その後の学年会において、他学年の模範的な取組から自分の学年・学級の取組を検証する。	<b>〈家庭・地域の検証指標〉</b> ・各家庭においては定期的に、家庭学習が習慣化できているかをチェックして、状況に応じた励ましの声かけをする。
<b>【授業改善以外の学力向上の取組】</b> ・毎月、2回以上のタブレット端末の持ち帰りによる家庭学習の「学習の個別化」をすすめる。 ・滝尾小学校 家庭学習(宿題)の手引きを作成し、保護者と家庭学習について連携を図る。 ・多読賞の推奨やジャンルを指定した図書館利用や読書日記の取組。		